

会場	神戸国際展示場 2号館			神戸国際会議場	
	第1会場 1F 南	第2会場 2F 2A	第3会場 3F 3A	第4会場 1F メインホール	第5会場 3F 301(国際会議室)
収容人数	1,462席	300席	400席	680席	360席
8:00	8:00~8:30 ミニコンサート				
9:00	8:50~9:20 開会セレモニー 大会長講演 ◆255	生と死をめぐる葛藤を支える 安保博文 松本京子 久保山千鶴			
10:00	9:40~11:40 シンポジウム1 不治の病に向きあう人とその家族の生と死の葛藤を支える 高橋英之 二見典子 小西達也 橋 直子 安保博文 杉江礼子 ◆279	9:40~11:10 ワークショップ1 自己理解・他者理解をチーム医療に活かす！ ~MDTを用いた多職種間の理解を全人的医療に繋げる 藤田昌徳 <事前申込制> ◆308	9:40~10:40 災害関連企画1 災害急性期からの遺族支援：日本DMORTの取り組み 村上典子 岡本雅子 ◆276	9:40~10:40 講演1 認知症のある人の看取り 平原佐司 ● 柴 勝雄 ◆257	9:40~11:40 シンポジウム2 様々な施設で最期を看取る：その現状と支え 白田宏一 山口 家 田村 亮 金居久美子 山田登人 岡本雅子 ◆283
11:00			10:50~11:50 講演2 Autopsy Imaging：死亡時画像診断の実際とその果たす役割 法本友直 ● 木澤義之 ◆258	10:50~11:50 講演3 スピリチュアルペインをアセスメントする 田村忠子 ● 船谷優子 ◆259	
12:00	12:00~12:45 ミニコンサート	12:00~12:45 セミナー1(中継) 対話の感性と技術を磨く(中継)	12:00~12:45 セミナー1(中継) 対話の感性と技術を磨く(中継)	12:00~12:45 セミナー1 対話の感性と技術を磨く ● 市橋正子 ◆274	
13:00	13:00~14:00 総会および特別講演 【特別講演】 セルフケアできてますか？ ~いのちと向き合うあなたへ~ 高宮有介 ● 三枝好幸				
14:00	14:10~16:10 シンポジウム3 進行がんの治療継続をめぐる葛藤の共有 加藤英史 西本啓郎 伊藤由美子 桜井なおみ ● 池田洋一 ● 藤原由佳 ◆287	14:10~16:10 シンポジウム4 認知症のある人の症状マネジメントと意思決定支援 藤原昭江 西山みどり 小川朝生 ● 野間のみり ◆291	14:10~16:10 シンポジウム5 苦痛緩和のための鎮静と安楽死：尊厳ある死と死ぬ権利をめぐる葛藤 船橋一人 森田達也 田代志門 田中美穂 ● 坂口幸弘 ● 安保博文 ◆294	14:10~16:10 シンポジウム6 多様なグリーフケアの展開：病院、葬儀社、遺族会、保健所の取り組み 石野史子 ● 神野君夫 ● 神野雅加 ◆330	14:10~15:10 事例検討9 グループホームでの介護職と共に取り組んだ「人生会議」のプロセス 平野裕子 ● 赤木幸奈 ● 安藤祥子 ● 林 卓敏 ◆316
15:00					15:20~16:20 事例検討10 参考介護のなか、親の葛藤・子どもの葛藤、後者の残る症例から「考夫権」を奪う・病院・地域の役割とは？ 田中夏江 ● 渡部 聡 ● 石川陽子 ◆331
16:00	16:30~17:30 講演4 スピリチュアルケア：私の学び、葛藤、実践 山崎章郎 高宮有介 ◆280	16:30~17:30 講演5 自然な看取りを在宅看取り率1位の聖岡から学ぶ 山本大祐 大槻恭子 清水政成 ◆261	16:30~17:30 講演6 深も深い、力になる 〜死の聖岡から学ぶ〜 山本大祐 大槻恭子 清水政成 ◆263	16:30~17:30 災害とグリーフケア 私と体験した人の看取りと私の看取り ● 岡本雅子 ● 森本有里 ● 松本京子 ◆277	
17:00					16:00~17:30 特別事例検討5 【寄り添えない苦痛】をどう捉えるべきか →投資指指を続ける患者への関わり 矢野有紀 ● 三木清子 ● 佐々木美奈子 ◆320
18:00					16:00~17:30 特別事例検討6 壮年期における非がん患者の自宅看取り →長期で続けられなかった原因を探る 辻 良子 ● 前野 宏 ● 高野洋子 ◆321

神戸国際会議場				神戸国際展示場 2号館	会場
第6会場 4F 401+402	第7会場 5F 501	第8会場 5F 502	第9会場 5F 504+505	ポスター会場 1F 北	
収容人数	214席	212席	212席	186席	収容人数
8:00					
9:00	9:40~10:40 事例検討1 補完代替療法を受けていたAYA世代の患者は生と死にどう向き合ったのか。医療者はなにができたのか。 大森英紀 ● 小野寿文 ● 梅田 忠 ◆322	9:40~10:40 事例検討2 学童期から抱き続けた「死の恐怖」を連綿と語る男性の直感を述べて 小杉孝子 ● 相田明規 ● 井上光徳 ◆323	9:40~10:40 事例検討3 生命の予後予測2ヶ月でACPを行った1事例の明と暗 林 良彦 ● 平山 功 ● 牛取朋美 ◆324	9:40~10:40 事例検討4 笑顔を大切に、信念としてきたA氏が選択した持続的鎮静と希望 近藤直貴 ● 佐藤 健 ● 門林道子 ◆325	9:00~11:00 ポスター受付・貼付け
10:00	10:50~11:50 事例検討5 AYA世代のがん終末期患者との関わりを巡って 加藤真由佳 ● 足立誠司 ● 清水千穂 ◆326	10:50~11:50 事例検討6 リスクを冒しながらも「何か支援をください」という患者の希望と医学的適応の狭間で葛藤した1事例 嶋津茂代 ● 川田 誠 ● 船山真理子 ◆327	10:50~11:50 事例検討7 呼吸困難による苦痛を捉えたままになった患者への症状緩和のあり方と元来のグリーフケアを考える 小川依知子 ● 野村 亮 ● 辻川直行 ◆328	10:50~11:50 事例検討8 1カ月間の鎮静が行われたがん性難治性患者とその家族の関わりを支えて 岩崎純二 ● 足野 彰 ● 船橋夕香 ◆329	11:00~12:00 ポスター演題 Group1 1-A-01 ~ 1-A-05 1-A-11 ~ 1-A-15 1-B-01 ~ 1-B-06 1-B-07 ~ 1-B-13
11:00					12:00~13:00 ポスター演題 Group2 1-E-01 ~ 1-E-05 1-E-23 ~ 1-E-25 1-F-01, 1-F-08, 1-G-01 ~ 1-G-05 1-H-07 ~ 1-H-12
12:00					
13:00					
14:00	14:10~15:40 特別事例検討1 同職種である若年成人患者への寄り添い方に困難を感じた1事例 赤木幸奈 ● 安藤祥子 ● 林 卓敏 ◆316	14:10~15:40 特別事例検討2 重症大動脈弁狭窄症で難治途中の患者に大学病院緩和ケアチームとして意思決定支援に関わった事例 嶋津 英 ● 中村尚一 ● 松原貴子 ◆317	14:10~15:40 特別事例検討3 透析非導入を希望していた肺がんに罹患した慢性腎不全患者が終末期に透析開始を選択した。終末期を振り返って 加藤博美 ● 中村尚一 ● 渡部 聡 ◆318	14:10~17:10 国際交流広場 「死にゆく人ともある」ための姿勢を育む GRACEプログラムを体験してみよう 藤田一朗 ● 藤井義博 ● 栗原 聖江 ◆312	14:10~15:10 ポスター演題 Group3 1-D-01 ~ 1-D-07 1-D-08 ~ 1-D-11 1-E-06 ~ 1-E-11 1-E-18 ~ 1-E-22
15:00					15:10~16:10 ポスター演題 Group4 1-A-16 ~ 1-A-20 1-C-01 ~ 1-C-04 1-D-12 ~ 1-D-17 1-D-18 ~ 1-D-22 1-F-02 ~ 1-F-07
16:00	16:00~17:30 特別事例検討4 母親としての役割を大切にしながらも、その子どもへの治療期から看取りまでのサポートのあり方 野田麻友 ● 西原麻衣 ● 石川千夏 ◆319	16:00~17:30 特別事例検討5 【寄り添えない苦痛】をどう捉えるべきか →投資指指を続ける患者への関わり 矢野有紀 ● 三木清子 ● 佐々木美奈子 ◆320	16:00~17:30 特別事例検討6 壮年期における非がん患者の自宅看取り →長期で続けられなかった原因を探る 辻 良子 ● 前野 宏 ● 高野洋子 ◆321		16:10~17:10 ポスター演題 Group5 1-A-06 ~ 1-A-10 1-D-23 ~ 1-D-27 1-E-12 ~ 1-E-17 1-H-01 ~ 1-H-06
17:00					
18:00					17:50~19:30 大先輩から学べる懇談会 ●は座長・司会 ◆は抄録掲載ページ

◆は抄録掲載ページ

タイムテーブル

神戸国際展示場 2 号館			神戸国際会議場		
会場	第1会場	第2会場	第3会場	第4会場	第5会場
	1F 南	2F 2A	3F 3A	1F メインホール	3F 301 (国際会議室)
収容人数	1,462 席	300 席	400 席	680 席	360 席
8:00	8:00~8:25 ミニコンサート				
9:00	8:30~10:30 シンポジウム7 人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドラインの意義とその応用：医療モジュールから生活モジュールへの転換 樋口龍雄 清水裕子 伊藤 香 水澤元之 ◆302	8:30~10:00 シンポジウム8 がんおよび非がん患者の終末期における薬の選択とマネジメント 堀 直樹 山口泰弘 岡本裕見 山本 亮 平井みどり ◆305	8:30~10:00 企画委員会シンポジウム 真の援助者を目指して 遠藤清次 齋藤剛康 相田里香 松野善俊 ◆313	8:30~9:30 講演 8 日本人の「死の文化」 渡平忠美子 志真泰夫 ◆265	8:30~9:30 講演 9 看取りケア エビデンスとプラクティス 宮下光令 森本り子 岡田幸子 ◆266
10:00		10:10~10:55 ワークショップ3 マインドフルネスの実践 岩井 圭司 <事前申込制> ◆310	10:10~11:30 講演 12 医療現場の意思決定はなぜ不合理になるのか 行動経済学から意思決定支援を考える 平井 啓 石川明宏 ◆270	9:40~10:40 講演 10 慢性心不全の緩和ケア：在宅の現場から 弓野 大 坂下明大 ◆268	9:40~10:40 講演 11 仏教の死生観と救済観からスピリチュアルケアを考える：震災の死、病の死 高橋直樹 谷山洋三 ◆269
11:00	10:40~11:40 講演 13 死の臨床をめぐる言葉・死を述べて得る「智慧」に気づく 志真泰夫 安塚博文 ◆271	11:05~12:25 ワークショップ4 STAS-Jの発展版 iPOS (Integrated Palliative care Outcome Scale) を用いてケアの質を高める 宮下光令 ◆311	10:50~11:50 講演 14 死の臨床研究と現象学 演説正二 西島敦子 ◆272	10:50~11:50 講演 15 「施設の看取りで求められる 家族との関係性の再構築」 高口光子 清水政克 ◆273	
12:00	12:05~13:05 セミナー2 最期まであたらしく生きるために —マズロー理論の全人的ケアへの応用— 山形謙二 松田真樹 ◆275		12:05~13:05 セミナー2 (中継) 最期まであたらしく生きるために —マズロー理論の全人的ケアへの応用— (中継)		
13:00					
14:00	13:30~14:50 市民公開講座 死を背負って生きる 船本智夫 長尾和広 ◆278				
15:00	14:50~15:20 閉会セレモニー				
16:00					
17:00					
18:00					

タイムテーブル

神戸国際会議場				神戸国際展示場 2 号館	
会場	第6会場	第7会場	第8会場	第9会場	ポスター会場
	4F 401+402	5F 501	5F 502	5F 504+505	1F 北
収容人数	214 席	212 席	212 席	186 席	
8:00					
9:00	8:30~10:30 ワークショップ2 こどもの看取りをする 家族への支援を 家族同心球環境理論 (CSFT) で紐解く 法橋尚宏 <事前申込制> ◆309	8:30~9:30 事例検討 11 希少がんに罹患した AYA 世代の患者に対する 医療者の葛藤 我上美千子 坂 寛 長谷川陽子 ◆332	8:30~9:30 事例検討 12 緩和ケアチームと病棟の 鎮静に対する信念対立が 発生しチームの看護師として 悩んだ事例 植木三起郎 井上美穂 ◆333	8:30~9:30 事例検討 13 いっさいの連絡手段を 持たなかった独居がん患者の 在宅看取りの経験 岸上明美 白田史人 門脇幹子 ◆334	8:30~9:30 ポスター演題 Group6 2-A-01~2-A-05 2-B-01~2-B-06 2-C-01~2-C-04 2-D-01~2-D-05 2-G-01~2-G-05
10:00		9:40~10:40 事例検討 14 経済的問題を抱えた 若年がん患者との関わり 山本真由 菅野吉和 脚牧由子 ◆335	9:40~10:40 事例検討 15 患者の最期の希望である 外泊の実現 —外出に行きたまひと DNAR が 尊重されなかった葛藤— 坂井悠子 菅野 穂 成瀬優子 ◆336	9:40~10:40 事例検討 16 患者本人にバッドニュースを 伝えないという家族の 希望に対して緩和ケアチームは どのように寄り添えるのか 佐々木淑雄 岡村幸治 本松裕子 ◆337	9:40~10:40 ポスター演題 Group7 2-C-05~2-C-09 2-B-13~2-B-17 2-C-10~2-C-14 2-H-01~2-H-06
11:00	10:50~11:50 事例検討 17 自己中心的な父、依存的母亲。 そして、多難な弟 兄を亡くした後、家族再統合のために できることは何か？ 塚原和寿奈 中野 帆 岩崎紀久子 ◆338	10:50~11:50 事例検討 18 「この胸を差し上げます」 といった劇外劇中の 患者のアロマを活用したケア 三好野穂子 花岡高樹 若村智子 ◆339	10:50~11:50 事例検討 19 高容量オピオイドの 迅速症状としてけいれん 発作をきたした1例 坂本雅樹 安部静美 神谷浩平 ◆340	10:50~11:50 事例検討 20 ホスピス病棟で親族を 看取った患者を経験して —あなたは受け持てますか？— 八尋 郁 北島勇人 小野芳子 ◆341	10:50~11:50 ポスター演題 Group8 2-A-06~2-A-10 2-A-11~2-A-16 2-A-17~2-A-22 2-B-07~2-B-12
12:00					12:00~14:00 ポスター撤去
13:00					
14:00					
15:00					
16:00					
17:00					
18:00					

●は座長・司会 ◆は抄録掲載ページ